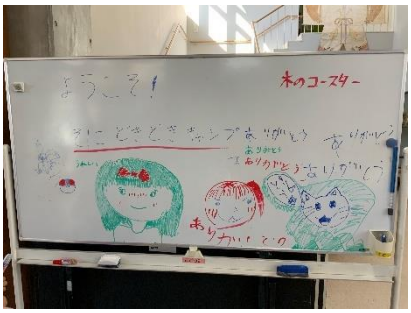
令和７年度　生活・自立支援キャンプ　「曽爾どきどきキャンプ」

［　主　　催　］国立曽爾青少年自然の家
［　期　　日　］令和７年 11 月 15 日（土）～16 日（日）
［　対 象 者　］児童養護施設に入所する子ども
［　参　　加　］21 名（うち施設職員４名）
［　担　　当　］増田　学（企画指導専門職）
　　坂本純一（主任企画指導専門職）



１　目　的（趣　旨）

曽爾の豊かな自然の中で、森遊びや野外炊事などの体験活動を通じて、規則正しい生活習慣を身に付けるとともに、異年齢の仲間との協働によりコミュニケーションを深め、達成感や自己肯定感を育むことを目的とする。

２　プログラム展開

11/15（土）	11:15	12:00	12:45～16:20	17:00	19:00～21:00	21:00	21:30
	開会式	昼食	亀山ハイキング、焚き火	入浴 夕食	フォークづくり	就寝準備	就寝
11/16（日）	6:30	7:00	8:00～9:00	9:00～12:30		13:00	13:00
	起床	朝の つどい	朝食 （カートンドッグづくり）	野外炊事 （うどんづくり・ちゃんこ鍋づくり）		木のｺｰｽﾀｰ づくり	閉会式

３　活動の様子

４　参加者及び引率者の感想

- ひとつひとつが思い出になっていい経験になりました。ご飯はおいしかったし、工作は楽しかったし、１泊２日いい思い出になりました。
- 登山のときに、いろいろな植物やもみじの種類が分かってとてもおもしろかったです。
- 体験も多く、時間配分や段取りすべて良かった。
- 普段おとなしい子が、大きな声で話をしていたり、積極的に活動に参加している姿が見られたりしたのが印象的でした。
- 自分の部屋の整理が苦手な子どもが、率先して部屋の片付けを行えていた。

５　まとめ

ゆとりのある構成によって参加者が楽しみながら挑戦できる環境を整えた。また、異年齢の交流を促進するため、野外炊事では役割分担をあえて曖昧にしたことで、自然な協力関係を生み出すことができた。さらに、当日は計画に縛られず、参加者の状況や指導者の意見を踏まえて柔軟に運営した。